

日本の宇宙科学研究の中核 JAXA宇宙科学研究所

◆ここでは何をしているの？

宇宙科学研究所では、宇宙の構造やその起源をさぐるために大気の外に出る天文観測、地球を含む太陽系の生い立ちをさぐる太陽系科学、宇宙空間でさまざまな実験を行う宇宙環境利用科学、新たな宇宙への可能性を切り開く宇宙工学などの研究をしています。

また、大学共同利用機関として、日本の宇宙科学分野の研究・教育の中心としての役割をはたしています。

得られた成果は日本国内だけでなく世界中に発信しています。



◆なぜ宇宙を研究するの？

宇宙科学は我々に何をもたらすのでしょうか？それは宇宙の謎を解明するだけではありません。この地球をとりまく広大な宇宙を探るということは、宇宙に満ち溢れる謎に迫ると同時に、われわれの住む地球のことを探ることにもつながるので

す。地球環境問題の解決にも大きく貢献しますし、将来の新技术・産業の創出にも役立ちます。

人類社会の発展を担う次世代の人材を育てることや、国際社会への貢献にも関わってきます。

それらをふまえて、さまざまな研究活動、教育活動を行っています。

◆何人ぐらいが働いているの？

相模原キャンパスに在勤の職員数は408名です。

ここでは宇宙科学研究所や宇宙教育センター、契約、財務、施設部門の職員の他に大学研究者、大学院生、外国の研究者、メーカーの人たちも働いています。（職員数は2017年4月現在）

◆最近の主な成果は？

2016年12月、イプシロンロケット2号機により、ジオスペース探査衛星（ERG）が打ち上げられ「あらせ」と名付けられました。「あらせ」は順調に観測を続けています。

太陽観測衛星「ひので」は2016年で打上げ10周年を迎え、最近では波動による太陽彩層形成の証拠の観測で成果をあげました。惑星分光観測衛星「ひさき」は木星磁気圏への太陽風の影響を観測しました。超小型衛星EGGは展開型エアロジェルを用いた大気圏突入など、一連の実験を完了しました。また、月周回衛星「かぐや」が撮影したハイビジョンカメラにより取得したデータに基づく映像の公開を行いました。

◆これからの計画は？

2018年打上げ予定の国際水星探査計画 BepiColombo（ベピコロombo）に、日本は水星磁気圏探査機（MMO）で参加します。また、小型月着陸実証機 SLIMのプロジェクトも進行中です。X線天文衛星代替機、火星衛星探査計画（MMX）についても検討を進めています。

このほか、長野県佐久市では臼田局の後継となる大型アンテナ、深宇宙探査用地上局（GREAT）の建設が進んでいます。

また、2018年夏には「はやぶさ2」が小惑星 Ryugu到着予定です。

◆所長から一言

宇宙科学研究所へようこそ。所長の常田 佐久（つねた さく）です。宇宙研では、ASTRO-Hの運用断念により失った信頼回復に、引き続き取り組んでおります。所内外の方々と共に、世界とつながり魅力的なサイエンスを実行する宇宙研の良さを残しつつ、より信頼性や安全性が高い革新的な宇宙科学プロジェクトの開発・運用体制を構築していく所存です。ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

今年から「宇宙探査実験棟」をご覧くださいませ。月などの表面地形を模した施設があり、将来の月や惑星探査を行う着陸機やローバ、ロボットの試験を行います。



◆もっと詳しく知りたい人のために

<http://www.isas.jaxa.jp/>